

おりおん ネット

2004.12 第21号



目次

ひゅーまんパワー ～地域づくり団体紹介～	
中田郷活性化委員会	2
主婦オーケストラ「ばんげマザーズ」.....	3

パートナーシップ ～協働の地域づくり～	
下郷町戸赤地区	4

サポート事業だより	
びゃっこい村手作り絵本講習会及び展示会	5
まちなか県民サポートセンター事業	5

特集 ～全国津々浦々 県内外におけるユニークな取り組み～	
つまもので地域づくり(株)いんどり	6

キーパーソン ～地域づくり実践者紹介～	
伊藤 芳雄さん	7
松 和敬さん	7

インフォメーション	8
-----------------	---

おりおんネットとは

福島県が持つ7つの生活圏の配置を、夜空に輝くオリオン座になぞらえ、個性豊かな7つの生活圏がそれぞれ独自の地域づくりにより圏域内の連携を図って1つの星としての輝きを増すとともに、7つの星が互いに連携し協調しながら大きな星座～福島県～として一体となって、さらに発展してゆくことをイメージしています。

福島県の7つの生活圏をご紹介します。

7つの生活圏



ひゅ〜まん パワー

中田郷活性化委員会

委員長 大竹 芳節

中田区は、石川町東部にあり阿武隈高地に抱かれた人口約800人(世帯数175戸)の地域です。本地域では、明治7年以来幾多の困難を克服し、中谷第二小学校を中心とした地域が形成されています。秋の運動会は、区との合同による区民総出の大運動会となります。

古殿町との境に石川町最高地の景勝地「二本ぶな」があり、八溝・那須の連山や磐梯・吾妻連峰が眺望でき、石川町で唯一のブナの自生地でもあります。

また、無形文化財である民俗芸能「中田のささら」が传承されており、八坂神社の祭礼には、三匹獅子舞、神楽、四方固めなどが奉納されています。



区民の心を繋ぐ「中田のささら」

黒炭窯で有名な「大竹式炭窯」は、本区の大竹亀蔵が考案したもので、その技術は関東、東北の各県に普及しており、その顕彰に取り組んでいます。



関東・東北で普及した「大竹式炭窯」を復元

本地域では、行政区内に特設委員会を設置し、昭和62年の小学校移転改築問題から活動を続けており、中谷第二小学校改築促進委員会、旧中谷二小跡地活用推進委員会、ささらの郷づ

くり委員会、そして現在は、中田郷活性化委員会として17年間にわたり地域づくり活動を行っています。

委員会は、区長を退任した委員長をトップに区長経験者、組長、組選出委員、各種団体長などで構成しています。

今年度は、6月に読売新聞社主催、環境省共催の日本の里地里山30コンテストにおいて、中田の自然・文化の両面の保護保全活動が認められ受賞することができました。9月には、いにしへの大和と蝦夷の国境を望む「二本ぶな」に自然石の山岳パノラマ石を設置しました。



「二本ぶなパノラマ石」除幕式

更に今年度は、「中田のささら」保存組織の再編や祭りの見直し、児童減による小学校問題、県道の凍結問題などの課題にも「中田郷未来会議」として取り組んでいます。

中田区は、他地域では、著しい児童の減少が進んでいる中、「中谷二小」を昭和59年から20年間、ほぼ横ばいの児童数60人台を保ってきたことは、積極的な地域おこしを行ってきた成果であると考えています。

また、里山復元の活動の中心は、地域の高齢者達であり、里山づくりは元気なお年寄りを生み出していることも大きな成果であると考えています。

しかし、今日、本区には、かつてない過疎化の波が襲ってきており、この波を押し止めるために更なる地域資源の発掘と活用、体験学習プログラムの開発など都市との交流等による新たな地域づくりを模索しているところです。

連絡先 / 中田郷活性化委員会事務局長 瀬谷寿一

主婦オーケストラ「ばんげマザーズ」 ばんげマザーズ代表 上野 句子

平成 14 年 4 月～9 月、日本テレビにおいて、女ゴコロ観察バラエティ「地球は女で回ってる？」(木曜日 19:00～20:00)が放送されました。その中の連続企画「小さな町の楽器物語」が発足のきっかけとなりました。

会津坂下町は人口およそ 2 万人の町。町一番の自慢は歌手故春日八郎が生まれた町であること。

「このまちで何かやりたい!」と思う主婦 3 人が、番組あてに「主婦仲間オーケストラをやりたい」というハガキを送ったところ、番組から 16 の楽器(バイオリン 5、ピオラ 3、チェロ 2、コントラバス 1、フルート 3、クラリネット 2)が貸し出されることになりました。

家事、育児に追われながら、練習、仲間探し、先生探し、曲探しを全て自分たちで行い、16 名のメンバーと指導の先生と共に、7 月 27 日に町民体育館においてファーストコンサートを成功させることが出来ました。その後、楽器はそれぞれの手元に残されることになり、今も活動を続けています。

現在は、山中清司先生(元会津市民オーケストラ団長)の指導のもとで、週 2 回のペースで練習しています。メンバーも 2 人増え、18 人となりました。



会津坂下町台ノ宮公園での練習

演奏依頼は年 15 件ほどあり、主に町のイベントや町内外の幼稚園、小学校、また老人介護施設や子育て教室等で演奏しています。子どもからお年寄りまで喜ばれるように、ジャンルにこだわらずいろいろな曲(クラシック、アニメソング、Jポップス、春日八郎シリーズ etc)に挑戦しています。

発足時はほとんどが楽器未経験者でしたが、少しずつレパートリーを増やしながら、音楽を楽しんでいます。ありがたいこ



本郷町ケアハウス「ハーモニー本郷」での演奏会

とに、練習場所は町役場の会議室をお借りしていますので活動の拠点としては最適です。しかし、メンバーが主婦ということで、パート勤めや家業に忙しく、全員揃っての練習がなかなか出来ないことが悩みです。

それでも、誰ひとり脱会することなく続けてこられたのは、家族の理解があってこそと感謝しています。

坂下町には、他にも音楽愛好団体がたくさんあります。その方達と共に演奏できたらと、曲作りを現在進めており、近い将来に「コラボレーション」が出来るよう頑張っています。

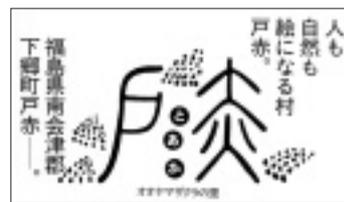
また、これからもっとメンバーを増やしていきたいと思っています。「マザー」以外でも一緒に演奏を楽しめる方(男性・学生等)の参加をお待ちしています。



練習よりおしゃべりが多いかも?

連絡先 / ばんげマザーズ代表 上野 句子

オオヤマザクラの里 戸赤



下郷町総務課総務班 副主幹 室井 春雄

南会津郡の北東に位置し、主要国道121号で会津若松と田島町に接する下郷町は、大内宿、塔のへつり、湯野上温泉などがあり、面積317.09平方km、人口7,600人、世帯数2,300戸、集落数38地区。このうち戸赤地区は人口78人、世帯数27戸、高齢化率44%。高齢者のいない世帯は5戸以下です。

戸赤集落は、一家離村、あるいは後継者が町中心地等へ別居する傾向が続く中、町が提唱する「元気な町づくり支援事業」をきっかけとし、「福島県地域づくりサポート事業」及び「福島県特用林産振興対策事業」で村おこしに乗り出しました。

「元気な町づくり支援事業」は、平成14年度から3年間に限り、1集落1,000万円を限度として、町が集落に助成するもので、助成した事業がどのように地域の活性化につながるかが、採択の重要な要件となっています。

戸赤集落の目玉は、山桜です。明治初期、集落向かいの山を対象に、5種類の木と桜の木を切らない申し合わせをし、今に引き継いできました。近年、この山の桜が注目を集めるようになり、村おこしの起爆剤として活かすこととしました。



山桜まつり(3千人の来訪者)

事業全体としては、地域学習会、多目的広場設置、ロゴマーク制作、ライトアップ装備、水車式木工ろくろ工房設置、地域案内看板設置、炭焼き施設設置等です。今年6月、国の地域再生計画の認定を受けた「戸石川流域農山村再生計画」の中心は、廃校予定の戸赤分校の利活用です。

これらの事業で目指すものは、自然的条件と伝統的な生活習慣を活かし、地域の人材を頼りに、住んでいる者が誇りに思える地域づくりを進めることです。交流が生まれ拡大することにより、地域に後継者も育つ魅力ある田舎を創造することができると考えています。

取り組んできた主な活動としては、月一回発行目標のミニ機関紙です。事業の進捗報告、行事のお知らせとまとめを中心として載せ、26号を数えました。

今年4月下旬、1週間にわたり開催した山桜祭りでは、ライトアップを行い、延べ3,000人以上が訪れました。山菜、農産物、郷土食などを販売し、村はかつてない盛況を経験しました。



山桜まつり(初めての出店体験)

山桜祭りで得た成果は、高齢者まで村おこしへの参加意識が出てきたことです。来年のため、もち米の作付けを増やしたり、荒れた畑に穀類を作付したり、徐々に変化が見られるようになりました。

近い将来の夢は、体験宿泊展示施設として再出発する戸赤分校校舎を中核に、木地挽き、炭焼き施設を活用し、民泊、食堂などが生まれ、高齢者もインストラクターとなって活動できる体制に持ち込むことです。



廃校予定の戸赤分校における写真展

山菜農園、山オーナー制度も立ち上げ、村がどことなくざわめく、そんな雰囲気が感じられる日が一日でも早く来るよう、事業を展開させていきたいと思えます。

連絡先 / 戸赤区長 星 丈夫

ステキな“地域づくり”を

サポート 事業だより

をご紹介します。

びゃっこい村 手作り絵本講習会及び展示会

実行委員（表郷村教育委員会生涯学習課） 鈴木 純

びゃっこい村手づくり絵本実行委員会は、長年手づくり絵本や読書活動に携わってきた地域の母親たち及び地域づくりに懸命な有志によって、昨年組織されました。職業は皆様方で、年齢も20代のおねえさんから40代のおじさん、50代のおばさんまで15名の委員より組織されています。

表郷村では、以前より手づくり絵本の指導や作品展、移動文庫をはじめとする読書活動が盛んで、十数年の歴史があり地域の母親たちによって支えられてきました。

家庭教育の重要性が認識される中で、絵本を通じた親子のふれあいの追求と地域資源を創作活動の中で活用することによる地域の活性化という二つの目的を掲げ、これまでの絵本展にテーマ設定とコンテスト形式を導入し、昨年からのサポート事業の活用により、リニューアルした新しい絵本展を開催しています。



読み聞かせ会

実行委員会では、まず、夏休みに県南地域の各地（表郷、棚倉、埴、石川）で手づくり絵本の講習会を実施しました。次いで、講習会で完成した作品をはじめ村内外からの作品を広く募集し、約200点の作品を9月17日から3日間、役場玄関ホールに展示しました。絵本展は、表彰式、読み聞かせ会、造形教室を行い盛況のうちに終了しました。



造形教室「飛び出すカードづくり」

実施していますが、村外からの出品数が多く入賞している状況を見ると、ちょっとした表郷のムーブメントが少しずつ理解されているような気持ちになります。

課題は数多くありますが、びゃっこい村手づくり絵本講習会・絵本展の回数を重ねられる組織づくりが必要であると考えています。

連絡先 / びゃっこい村手づくり絵本実行委員会
（表郷村公民館内読書連絡会室） 実行委員長 沼田浩一

まちなか県民サポートセンター事業

NPO法人福島県ベンチャー SOHOテレワーカー
共働機構（うつくしまVST）相双支部
支部長 関場 英夫

私たちは福島県のIT化やデジタルデバイドの解消、新産業の創出、教育の情報化の推進などに貢献し、より大きなエネルギーを発揮するため、平成13年、県内6支部からなる全県NPOとして、特定非営利活動法人福島県ベンチャー SOHOテレワーカー共働機構（うつくしまVST）を設立しました。

その支部のひとつがある私たちの住む相双地方は、県の中でも温暖で快適な生活環境を営むことができる素晴らしい地域です。しかし、この地域においても、日本経済の空洞化の影響は強く、工場の閉鎖や事業場の移転、中心市街地の空き店舗なども大きな問題になっております。

このような状況の下、地域で展開されている様々な「地域を元気にする活動」を応援し、サポートしていける場が望まれてきました。専門的な指導を受けることができ、特別な機材などを使うことを可能にして草の根から地域が活性化して元気になっていく事業をサポートし、現場の最先端で応援する場所として「まちなか県民サポートセンター」を原町市に開設することができました。

センターでは個人や小さいボランティア団体では保持できない最新のパソコンやプロジェクターなどの機材を共同で使用することができ、また毎月定期的に地域づくりや創業起業の専門家を招いて講演会、相談会を開催しています。



まちなか県民サポートセンター

相談員の中小企業診断士や社会保険労務士の参加や、前会津大学学長や埼玉大学教授の模擬ゼミナールや講演会も新聞紙上を賑わせた大きな反響を呼びました。



まちなかフォーラム

また、パソコンやインターネットの使用等について気軽に相談できるIT相談専門員の常設配置など、地域のボランティアやメンバー等の手弁当の協力もあり、運営も順調に進んでいます。

今後、「まちなか県民サポートセンター」が相双地方のデジタルデバイド解消や「まちづくり」の拠点になればと考えます。

皆様の参加や御協力をお願い致します。

連絡先 / まちなか県民サポートセンター（うつくしまVST相双支部）

～県内外におけるユニークな取り組み～

つまもので地域づくり(株)いろいろ

徳島駅から民営バスで1時間、バス路線の廃止により運行が始まった町営バスに乗り継ぎ30分。上勝町は徳島県のほぼ中央に位置し、人口約2,000人、高齢化率44%を越す山林に囲まれた町です。

同町は、「町づくりは人づくり」を重点施策に掲げ、地域の目標を定め、地域の人が頭脳と体力を使って行う「1Q運動会」(案内板の設置や枝打ち作業等)や2020年までのごみゼロを目指した取り組み(35種の分別収集)、地域産業の活性化を進めるための第3セクターの設立(5社で116名の雇用)など全国から注目を集めています。

今回は、上勝町にある5つの第3セクターの一つであり、料理の「つまもの」(紅葉、柿、南天などの葉や梅、桜、桃などの花)の商品化で年間売り上げ2億5,000万円を越す「彩」について(株)いろいろ横石取締役と豊田さんにお話を伺いました。



上勝町の風景

彩事業を始めた経緯



豊田さん(左)横石さん(右)

横石さんは、昭和54年上勝町農業協同組合へ営農指導員として入社しました。

当時の主要な産業は、建設業とみかんであり、公共事業、補助事業頼みの産業でした。地域の方に「このままでは駄目だ。上勝は良くならない。」とお話ししたところ「よそ者のお前に何ができる

んだ。」と反発を受けました。

私は、その言葉が悔しくて、毎年、徳島の市場へ上勝町の農産物を持って行商に行きました。以来16年間、年間の売り上げを1億～2億円伸ばしてきました。

しかし、一部の人間だけでなく、この地域に住んでいるお年寄りのできる仕事があれば町全体がもっと良くなると考えていました。

出張時に何気なく寄った大阪の料理屋での出来事です。隣のお客さんが料理ではなく、そこに添えられた「つまもの」の紅葉ばかり褒めているのです。

私は、これだと思いました。紅葉なら上勝にもたくさんあるし、軽いのでお年寄りにもきつと協力してもらえ考えたのです。

早速、上勝に戻り、お年寄りに話したところ「紅葉なんか全国どここの山にもあるだろ。絶対売れるわけがない。」と言われました。試しに、紅葉1,000パックを出荷してみましたが、売れず、運送費等の経費を差し引くと赤字になってしまいました。

しかし、どうしてもあきらめきれませんでした。2年間、葉っぱを持って料理人を訪ねました。正面からお客さんとして入るのは異なり、裏木戸商売です。こてんぱんにやられました。でも、料理に添える「つまもの」が季節を表現し、それぞれのいわれを持っており、葉の色や大きさにまでこだ



商品「紅梅」

わったものであるということも教えてもらいました。

どんな葉が売れるかのマニュアルを作り、再度お年寄りの協力により出荷しました。前とは異なり「つまもの」は売れ、事業として軌道に乗せる自信をつかむことができました。

株式会社いろいろの事業

上勝町等の出資により平成11年に株式会社を設立しました。

現在、彩事業に協力してもらっている方は179名。女性や高齢者が中心で、平均年齢は79才。紅葉、南天などの出荷品種は322種です。JA東徳島から東京、大阪、名古屋、福岡等全国の市場に出荷しています。大阪の市場で、上勝町の「つまもの」は7割のシェアを占めています。

登録会員へは毎日、その日における品種別・市場別の出荷量と取引価格、明日の出荷目標数と売れ筋品種、昨年の実績と今年の出荷状況、出荷者毎の売り上げ金額と順位を独自のネットワークで提供しています。

キーボードを簡素化した専用の端末機によりお年寄りが使いやすいように工夫しています。

今年10月の「つまもの」売り上げ1位は、80才のおばあちゃんで73万円。年収1,000万円を越すお年寄りもいます。

お年寄りは毎日パソコンを見ています。「何歳になっても人には負けたくない。順位は落としたいくない。」という気持ちからです。

追加注文が入れば、同報FAXで「明日の午後1時までに紅葉を何パック」と登録会員に送ります。受け取った会員は一斉にJAに「出荷できる。」と連絡します。早く連絡した会員が注文を取れるからです。注文の直後はいつも話し中でJAとの連絡がとれません。



登録会員

「つまもの」をビニールハウスで栽培している方もいます。温度管理(暖房)や日照管理(ネット)で早めの時期に出荷できれば季節感を先取りした商品として高く買ってもらうことができるからです。

彩を通しての地域づくり

20年前の上勝町はいつも負け組でした。批判することが通常で最初から皆あきらめていました。

でも、今、町は蘇りました。日本料理を通して「つまもの」の価値を知ることができました。私たちは葉ではなく地域の「価値」を売っているのだと思っています。

これからは、人が住んでいない山村ほど良くなります。人が住んでいない所に価値が生まれます。受け身ではなく、どうすれば良いのかを常に考えていけば、価値を売る仕組みにより人や地域を変えることができると思っています。

訪問を終えて

徹底した市場のニーズ把握とお年寄りのやる気を最大限に引き出し、上勝の価値を売るという横石さんの信念としたたかな経営戦略が印象的でした。

連絡先

株式会社いろいろ

〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字下横峯3-1

伊藤 芳雄さん



プロフィール
昭和42年生まれ。本宮商工会青年部部長。ミニコミ紙ショッピングアドベンチャー宝島編集長。NPO うつくしま YOSAKOI 振興会 東北支部長。冬のライトファンタジア実行委員長。おもしろ職人村実行委員長

「この地域を楽しくしたい！」東京銀座で家業の修行をし、本宮に帰省して、この地域で生きていこうと誓った時に思った事です。

その後、ミニコミ紙を発行したり、様々なイベントを仕掛け、その都度、「一番やりたい事は、地域住民参加型イベント等の構築」と考えていました。

何故、住民参加型かというと、今のイベントのほとんどは、地域住民がお客さんとしてのみの来場が多いと思います。それでもソフト事業としての地域イベントづくりは成功かと思いますが、私は、本当の地域づくりにはならないと思っています。

開催されるイベントがキッカケで、地域住民が参加する場が出来ること、また商店街が自ら参加することによって商店街を活性化させることが出来ること、参加することが地域コミュニティづくりの一番大切なことだと思います。

今年も冬に開催される「冬のライトファンタジア」事業。これは「町中がイルミネーション」と「町を舞台にした音楽



冬のライトファンタジア

祭」の2つの柱から構成されています。

我々商工会青年部が商店街を流れる安達太良川を中心に橋にイルミネーションを飾り、街中の商店街がそれぞれの企画で飾り付けをする。

その中に町中の保育園児が描いた光の灯籠を飾り、商店街の町中を老若男女みんなで歩いてもらおうというもの、町中を舞台にした冬の音楽祭を開催し、地域団体の出演や音楽家を招いて、この地域の音楽の発展につながればと企画しています。

どちらも、地域住民の参加から成り立っている事業です。これからも、もっともっと地域づくりを続けていきたいと思っています。

松 和敬さん



プロフィール
昭和11年生まれ。平成12年12月、長年の会社生活を卒業。平成13年、うつくしま未来博「森のネイチャーツアー&森の学校」に参加。同年10月、いわきの森に親しむ会を設立。平成16年6月、NPO法人の認証を受け理事長に就任。いわき地域環境科学会会長。

地元の化学メーカーに事務屋として勤務、64歳で無事卒業し、今までとは違った生活を送りたいと考えていたところ、あるきっかけから「福島県もりの案内人養成講座」を受講し、それから間もなく、未来博のボランティアスタッフとして学んだことを実践することになりました。

以前から環境問題に興味を持ち、自分なりに取組んできましたが、その中で学んだのは、環境問題の本質は緑と水と土にあるということです。

未来博では、どこにでもある裏山をフィールドに「森の中の命のつながり」をテーマとした様々な活動が展開され、身近な自然に触れ合い、自然の持つ不思議に出会い自然の仕組みを知り、自然のもつ様々な働きに気付くことの大切さを学ぶことができました。未来博での経験は非常に新鮮で、これからの環境問題の解決のために為すべきことを教えてもらいました。

「いわきの森に親しむ会」は、この経験をいわきで継承し、発展させようと考え立ち上げたもので、市民の森づくりと森に親しむための自然観察会、自然観察会のための指導者の育成を中心に活動を展開し、設立から満3年が経過しました。



いわき自然案内人育成講座における野外研修

「安全第一に、楽しく」をモットーに、「森に親しむ」という共通の思いがあれば、各自思い思いにやってもらおうこととしています。ボランティア活動では、お互いの共通点を見つける努力をし、そこで連携協力する関係を作っていければと思っています。

森と付き合う場合、時計の進み方がゆっくりですので、じっくりと一步一步進んでいこうと考えています。

連絡先 / いわきの森に親しむ会事務局
(福島高专環境科学教育研究センター内)

イベント情報

夢王国ふたば2004

双葉町の冬の空を彩る「夢王国ふたば」のイルミネーションが12月5日から点灯します。また、12月23日には、親子で参加できるクリスマス・イベントを開催します。当日は、子供たちにクリスマス・プレゼントも用意しています。

問合せ 夢王国ふたば実行委員会事務局
(ステーションふたば内)
0240(23)0051

高柴の里に輝く「光と炎のファンタジー」

大越町高柴地区において地域交流事業を実施します。

と き ・平成16年12月19日～平成17年1月10日
(イルミネーションの点灯)
・平成17年1月10日
(どんと焼きとだんごさし大会)

問合せ 牧野ひまわり会
0247(85)3147

会津高原高畑スキー場オープン

スキーヤーオンリー、上質のパウダースノーの3.5kmのロングダウンヒルで知られる会津高原高畑スキー場は、12月23日(天皇誕生日)にオープンします。

オープニングサービスとして、リフト半日料金(大人2,500円、小/中学生1,400円)で1日フリーです。

問合せ 会津高原高畑スキー場
0241(76)2231

第2回アイスキャンドル

ヨーロッパでは毎年1月27日(アウシュヴィッツ収容所解放記念日)にアイスキャンドルを点灯して犠牲者を追悼し、平和への誓いを新たにします。白河でも平和とともに、地域振興にもつなげていくため「アイスキャンドル」を開催します。当日は手作りのアイスキャンドルを灯しますので、多くの方の御来場をお待ちしています。

と き 平成17年1月29日
ところ アウシュヴィッツ平和博物館(白河市白坂)及び周辺地域

問合せ アイスキャンドル実行委員会事務局
(NPO法人アウシュヴィッツ平和博物館内)
0248(28)2108



「八橋検校の今と昔」講演会

江戸時代初期、平藩内藤家に召し抱えられていた近代箏曲の祖・八橋検校の業績を講演と演奏でたどります。皆様のお越しをお待ちしています。

と き 平成17年1月30日 14:00～

ところ いわき文化センター

問合せ 八橋検校再発見事業実行委員会
0246(25)9154

第19回大内宿雪祭り

「よみがえれ江戸宿場」と題し、日本一の団子さし、具止餅拾い等が行われます。夜の宿場は幻想的です。入場無料。

と き 平成17年2月12日～13日

ところ 下郷町大内

問合せ 下郷町役場事業課産業振興班商工観光係
0241(69)1144



ふるさと卓球交流事業

東北・関東の小中学生、卓球スポーツ少年団、卓球クラブを対象にした卓球大会を開催します。

と き 平成17年2月14日～15日

ところ 古殿町民体育館

問合せ ふるさとスポーツ交流事業実行委員会
0247(53)4620

からむし織の里雪まつり

伝統行事の「だんごさし」や「豆まき」の再現とからむし織り・雪ざらしの実演、生活工芸体験、ふるさとの芸能まつりなど、盛りだくさんの内容です。また、つる細工や食べ物の腕自慢・味自慢が展覧します。

と き 平成17年2月27日

ところ からむし織の里

問合せ 昭和村観光協会
0241(58)1655



編集事務局では、皆さんからの情報をお待ちしています。お知らせしたいこと、楽しいニュースなどありましたら、編集事務局までご連絡ください。その他、この情報誌についてのご意見、ご希望、ご質問などがございましたら、何でもお気軽にお寄せください。

編集事務局
福島県企画調整部 地域づくり領域 地域政策グループ
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
024(521)7119 FAX 024(521)7912
E-mail tiikiseisaku-g@pref.fukushima.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/chiiki-shin/indexhtm.htm>